

ニチリンダテハセ

吃音児保護者学習会を行いました

三ヶ島小きこえ・ことばの教室には、6名の吃音児が通っています。吃音は、どもることを気にせずに話せる環境が大切です。子どもにとっての最大の環境である家庭の環境を整えられるよう保護者を対象にした学習会を年2回行っています。今回はその1回目で、吃音の基礎と吃音に向かい合うための土台となる力について学習しました。

知識はあっても、日々の生活で心掛けるのは意外と難しいものです。この学習会で再度確認し、振り返る機会になれば・・・と考えています。



【保護者に配付した資料の一部です】

吃音とは何か？

- 音を繰り返したり、つまったりするなどの**明確な言語症状（どもり）**がある
- 器質的（脳や発語器官等）に**明確な根拠が求められない**
- 本人が**流暢に話せないことを予期し、不安**を持ち、**悩み**、**避けようとする**

始まる時期、原因、発生率、性差

- 発音の時期*ほとんどの場合**幼児期**におこる
- 幼児期の吃音*自然治癒率**50~80%**
- 学齢期の吃音*小学校まで吃音の症状を持ち越すと、残っていくといわれる
- 原因*はつきりとはわかっていない
- 発生率と性差
*発生率 人口の約1%（幼児期は50~30人に一人）
*男女比 2:1~10:1

吃音症状①

(ア) 言語症状

- ① 通発（断音・音節の繰り返し）・・・ば、ば、ばくは
- ② 伸発（引き伸ばし）・・・ばーくは
- ③ 陥発（ブロック）・・・（・・）ばくは

(イ) 動作症状

- ことばのつかえに伴って、体のどこかを動かして抜け出そうとしたものが身についたもの
- ・瞬き
 - ・体をのけぞらせる
 - ・手足を震る
 - ・首を震る
 - ・手で足をたたく
 - ・鼻を吸う
 - 等

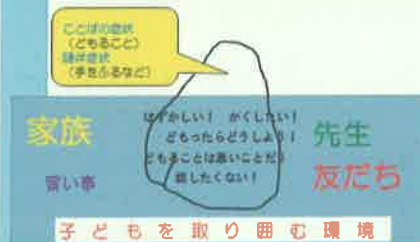
吃音の波

調子のいいときと悪いとき

- *季節による
- *体調による
- *場面による
- *ことばによる
- *相手による
- *緊張による など

波のおこり方は
一人一人がう

吃音の問題は氷山にたとえられる



家庭で心掛けること

- ・「ゆっくり**話して！**」「落ち着いて」と言うのではなく、**自分がゆっくり話す。**
- ・子どもが**どもってもどもらなくても、話し方**にはふれず、**内容に注目した反応**をする。
- ・子どもの話は**最後まで聞く。**
- ・話して良かった！という**継続**をさせる。
- ・吃音の話を**タブーにしない。**
- ・**自信**をつけさせる。

プレイルームに エアコンがつけました

『きこえ・ことばの教室』は、静かな環境が必須なこともあり指導室にはエアコンがついていましたが、隣のプレイルームにはついていませんでした。5月の中旬にエアコン設置の工事があり、待望のエアコンがつけました。毎年、7月のグループ学習は汗をぬぐいながらでしたが、今年は快適な環境でできそうです。



巡回訪問を計画しています！



クラスの雰囲気や学校での様子を把握し、今後の指導に役立てるため『巡回訪問』を実施しています。4月23日に小手指小、5月25日に林小学校、6月1日に荒幡小学校を訪問しました。いつもは1対1の個別指導ですから、30人前後の一斉指導での姿とは違うことがあります。クラスの中での子どもの姿、先生やクラスの雰囲気を含めて把握し、指導に役立てていきます。

今後は椿峰小・山口小へ行く予定です。残念ながらすべての学校へ行くことはできませんが、2～3年に1回は訪問したいと考えています。

令和元年度 前期ボランティアを紹介します！

保護者面談中のプレイやグループ学習などのサポート役として、ボランティアの方が今年度も入ります。前期は、早稲田大学・大学院の学生2名と三ヶ島中出身の大学生1名、元きこえ・ことばの教室担当だった森本先生です。ボランティアの皆さん、どうぞよろしくお願いいたします！



すずき だいすけ
鈴木 大介さん

【木：7～8】



まきの みのりさん
牧野 みのりさん

【水：1～2】



しんどう こうたろう
新藤 孝太朗さん

【水：7～8】



もりもと ちえこ先生
森本 千恵子先生

【金：5～8】

学校別通級児童数

R1. 6. 1現在

学校名	荒幡	北中	北野	小手指	椿峰	林	三ヶ島	山口	若狭	合計
男	2	1	1	0	0	2	1	1	0	8
女	0	0	1	1	1	0	1	1	1	6
計	2	1	2	1	1	2	2	2	1	14